資料2-12

AP再評価に関する一案
「基礎研究の成果をいかに臨床の現場に伝えるか」

ライフイノベーション協議会
構成員
京都大学医学研究科
柳田素子

基礎研究の成果は臨床の現場に伝わっていない

この谷を渡ると期待されたのが
Translational research (橋渡し研究)

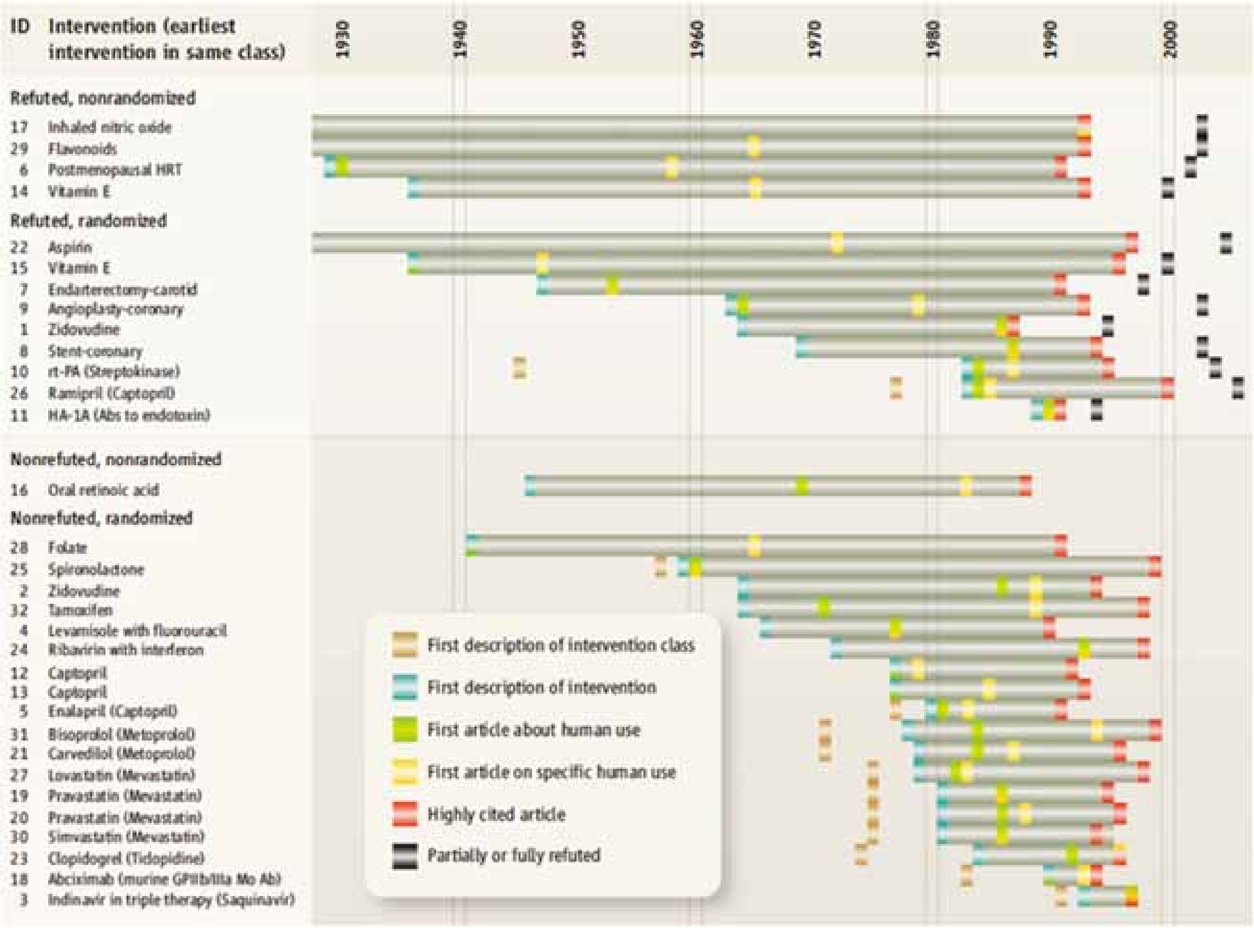
基礎研究者 → 医師
患者

この図はNature newsから転載

しかしtranslational researchには時間がかかる

この間はおよそ24年間

初めての報告 → 1000回以上引用された論文



Contopoulos-Ioannidis Science 2008

Translational gapの一因
動物モデルとヒトのギャップ

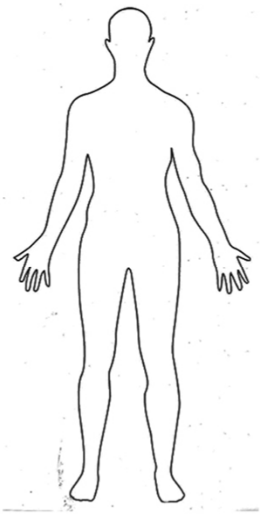
従来の医薬品研究はマウス発

マウスモデルで病態解明

得られた知見をもとに

薬剤開発

マウスでの有効性の検証



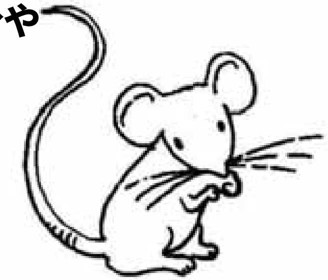
ヒトでの有効性がないことも多い

ヒト発の研究を可能にするシステムの確立

Human resource bank

患者さんから診断目的で
採取された組織の不要部分や
血液などで得られた
知見をマウスで検証

マウスで得られた知見を
ヒト組織や血液で
検証してから
薬剤開発へ



得られた知見をもとに
薬剤開発

マウスでの有効性の検証

ヒトでの有効性が
得られやすい

この設立には患者さんの同意と個人情報の厳密な保護が必須

基礎研究の成果をいかに臨床の現場に伝えるのか

1　人材育成
従来の枠を越えた視野の広い人材の育成
　分野横断的な人材交流の場の提供
　（例：京都大学の白眉プロジェクト）
　社会健康医学的視点の必要性
　（長寿だけではなく、QOLの向上を目指すために）
　知財担当者の育成
　（基礎研究の成果を守るために）

2　ヒトでの知見に基づいた基礎研究・臨床研究の必要性
　基礎研究者と臨床研究者／臨床医の交流の場の提供
　human resource bankの必要性
　　倫理面の越えるべき問題